

大阪大学と医療人文学の未来

Prolegomena to Medical Humanities in University of Osaka



池田光穂,世直し研究会(2022年2月21日),大阪大学医療人文学研究会 (3月11日)

全体の大まかな流れ

- 澤瀉^{ひさ ゆき}久敬先生のはなし
- 中川米造先生のはなし
- 池田光穂のはなし
- 阪大医療人文学の未来

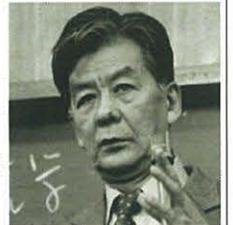
澤瀉^{ひさ ゆき}久敬先生と医学概論

- 1935-36年に大阪帝大の生理学者の久保秀雄と澤瀉久敬は留学先のパリで出会い意気投合する。
- ポアンカレやベルグソンを研究していた澤瀉は、久保との会話の中で医学哲学(教育)の重要を説く
- 日本初の医学の哲学の授業は1941年大阪帝大の久保の医学概論の中で開講される。



中川米造先生と医学概論

- 医学概論は久保秀雄の属する生理学教室の1941年授業からはじまる。この時、大阪帝国大学医学部新カリキュラム「国家国防医学(後述)」が提案される。
- 後に久保と澤瀉は空襲後の大阪市内を医学部の屋上から眺めて、この戦争は必ず終わる。「戦後」に次の若い世代に必要なのは「医学の哲学」であることを確信する。
- 1954年澤瀉は阪大文学部の教授に就任するために、それまで私淑していた中川米造が講師として生理学教室に就任する。





中川米造先生と社会医学

- ・久保秀雄の属する生理学第一教室に1954年中川米造が専任講師として澤瀉の後を「継いで」就任する。
- ・神経学の理論的問題 (1955);形態学と機能論の論理 (1956);病者論と医師論 (1957);社会医学の基礎論的問題 (1958);健康の科学としての医学理論 (1959);理論生物学 (1960);医学思想史 (1961)
- ・1964年東パキスタン、1966年ケニア・ウガンダへの訪問調査。
- ・1958年丸山博・衛生学教室教授に就任。1966年医学概論のポストは衛生学教室に移籍。中川は1969年暮れの森永ヒ素ミルク裁判闘争支援のために急速接近する。

丸山博と中川米造



- ・厚生省大臣官房統計調査部計析課の技官であった丸山博は1958年に衛生学教室の教授に就任する。1962年から授業で丸山は森永ヒ素ミルクをとりあげるようになる。
- ・中川は1965年に助教授に就任。丸山の影響でそれまで思弁的な医学哲学に埋没気味であったものが社会医学的色彩が強くなる (59年ガルドストンの邦訳)。ヒ素ミルク事件へのコミットは1969年以降。
- ・丸山とのタッグで重要なのは『日本科学技術史体系・医学』の編集。社会に埋め込まれた医学という発想が明確になる。

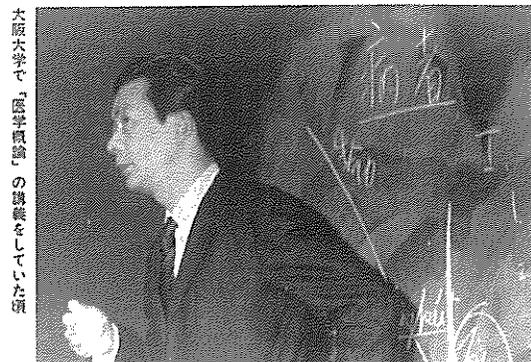
メディカル・ヒューマニティーズ元年期：1980-1985

- ・中川米造『医療的行為の論理』1980において、医師になる過程は、科学的知識の習得ではなく、試行錯誤を繰り返しながら、ある一定の範囲の治療法 (=これが言葉の正しい意味での専門医) に確信をもつ方法しかないと呼破。その過程を、自分の復員船時代とボアズの民族誌における治療師ケサリード(ジョージ・ハント)の事例にもとめる。
- ・1985年に蒼穹社の野島さんが『メディカル・ヒューマニティ』を創刊する。



復員船で医療助手をしていた頃 (大正二年)

ダンディーな教授



大阪大学で『医学概論』の講義をしていた頃



『社会医学の論理』の編纂を出版した頃

